

水稻慣行収穫法の地域性とその成立要因に関する研究（大分県・要旨）

立野，喜代太
九州大学農学部

古賀，茂男
九州大学農学部

<https://doi.org/10.15017/14125>

出版情報：九州大学農学部農場研究資料. 4, pp.53-57, 1977-06. University Farm, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

水稲慣行収獲法の地域性とその成立要因 に関する研究（大分県）

立野 喜代太
古賀 茂男

1. 調査地帯区分

7地帯に分けて調査をまとめた。(1)県北：穀倉地帯である。(2)国東：耕地条件が悪い。(3)新産都：大野川、大分川の下流一帯で地味豊沃で生産力が高い。(4)県南：番匠川、臼杵川の下流で高い生産力を示す水田もあるが、山間谷あいや海岸に散在する水田は生産力が最も低い。(5)竹田、大野：米作中心地帯である。(6)久住、飯田：山間部で低温、日照不足や圃場の不整形など生産条件は悪い。(7)日田、津江：久住、飯田同様、生産条件が不良である。

2. 調査の結果

(1) 刈取期：県南の早期栽培地帯の8月中旬刈取をのぞいては、10月より11月上旬にかけて刈取る。国東の一部では9月下旬にまたがる場合もある。

(2) 鎌の形状：久住、飯田地帯でうす鎌が多く用いられる外は、全県的にこの鎌が優位をしめている。

(3) 手刈り：5～6株を右から左へ刈取りながら前進する方法が一般的であるが、県北の山間部や国東、竹田大野の一部では前後の2株を3～4条刈取って前進するため、1回の刈株数は6～8株となる。また久住、飯田や竹田、大野の一部では同様の刈取り方法で5条を刈取るため10株になっている。このような地域による刈株数の変動は、当該地域の株ばりや収量の良否とも関連していると考えられる。新産都の日出、別府一帯では、刈取り方法が特異で、5～6株を左から右へ刈取って前進する。刈取った稲は左側にたおす。この方法は他地域では見られない。刈倒した稲は地干し地帯では5～6株をまとめて置くか、2握り、または3握りを稲の根本を交差させて置く。架干し地帯では10～15株をまとめて置き、結束の際の手間をはぶく。刈倒した株は左、右、うしろ、穂先を向い合せる置き方がある。国東、新産都および竹田大野の全部、県北、久住飯田の大部分では左置きが、県南の全部、久住飯田、および日田の一部では右置きが、県北の耶馬溪、山国一帯ではうしろ置きが、また、久住飯田の一部、日田の大部分では穂を向い合せる置き方がみられる。

(4) 刈株の高さ：全県にわたって全面低刈りが普通であるが、竹田、大野地帯では20～30%が全面高刈りで、特に竹田市では60～70%をしめている。県北、国東の一部では刈取り最後の株を高刈りにする。また、左から右へ刈取る日出、別府などでは左側最初の株を高刈りにしてい

る。このようにして高刈りした刈株に、刈取った稲の根本を置いて地干しの効果を高めている。

(5) 結束：材料はすべてわらであるが、地干し地帯の新産都、県南の全部、国東、県北、竹田大野の大部分、久住飯田の一部では、2～3日地干ししたのちむすで（本県では“いいぜ”が一般的な呼称となっている。）で大束に結束する。日田の全部と久住飯田の大部分、および県北、国東、竹田大野の一部では架干しにするため、小束に結束（15～20株）する。架干し地帯では刈取り後、当日のうちに結束する地域が多いが、耶馬溪地方のように刈りながら結束する場合も見られる。

(6) 乾燥法：地干し、地干し後野積み、架干しの3つの方法がある。地干しは田面で2～3日間、刈取った稲を予乾する方法で、乾田地帯でもっぱら行なわれる。刈取った稲を1握りづつ田面に置くのが普通であるが、2握りを根本で交差して置く地域もある（県南）。

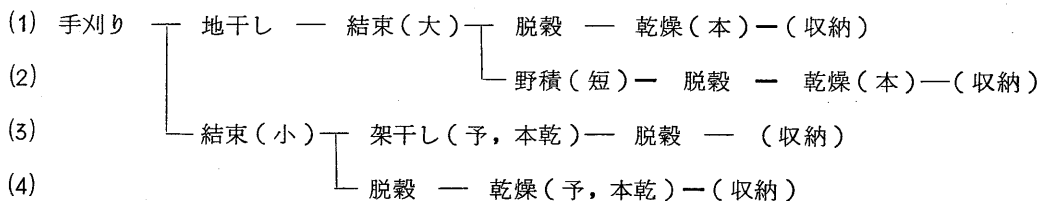
また、県北、国東、新産都の半乾地帯の一部にみられるように、刈取り最後または最初の株を高刈りにして、その上に稲体をのせて乾燥を促す様に工夫している。地干し後、野積みするのは県南地帯や久住、飯田地帯の一部にみられ、丸小積その他の方式がとられる。架干しは、3本組（または2本組）の支柱を2～3m間隔にたて、その上に横木（竹）をわたす。架け方の要領は稲束を半分に分けて横木に架ける。

(7) 運搬手段：地干し地帯では、人力によるほかはトレーラーや一輪車などが用いられる。山間の架干し地帯では人力による運搬が主である。

(8) 脱穀：脱穀機は自脱（チェーンおくり）が多いが、動脱も全体的にのこっている。自脱と動脱の比率は約7：3（昭和47年）程度とみられる。ことに山間部での動脱の比率は大きく、日田地域の一部（前、中、上津江）では約半数が動脱である。山間部では、自脱は重すぎて運搬に不便をきたすので、動脱が根強くのこっているという意見もある。

3. 収穫法の作業類型とその地域性

大分県の慣行作業類型は次の通りである。



(1)は新産都、県南のほぼ全部と、国東、県北、竹田大野の大部分、久住飯田および日田の一部にまたがり、一般的にとられている作業体系である。(2)の体系に属する地域は、本県では比較的狭く、県南の一部または久住飯田の極一部にみられる。(3)は山間地帯で全県的な広がりをみせている。(4)県南の早期栽培地域での作業体系である。

大分県

農業地帯区分	水田面積	刈取時期	鎌	刈数	刈方	置き方	刈株高さ	結束材料		結束の大きさ	乾燥の方法	脱穀時期	場所	組人数	機械
								別わら	むすで						
県北															
中津市		10下11上	鋸, 刃	4, 5	左	15(株)	低	別わら	小	架地	11中下	圃(屋)	4~5	自	自
豊後高田市		10下11上	鋸, 刃	4, 5	左	5	低	むすで, 別わら	大(小)	架地, 架	11上	圃	5~6	自	自
宇佐市		10中下	鋸, 刃	4, 5	左	5	低	むすで	大	架地, 架	11上	圃	3~4	自	自
大田村		10下	刃, 鋸	5	左	5	低	むすで	大	架地, 架	10, 11上	圃	4	自	自
真玉町		10下	刃	6	左	5, 10	低	別わら	小	架地, 架	10, 11上	圃	4	自	自
香々地町		10下	刃	6	左	5, 10	低	別わら	小	架地, 架	10, 11上	圃	4	自	自
三光村		10下11上	鋸, 刃	4, 5	左	15	低	別わら	小	架(地)	11中下	圃(屋)	4~5	自	自(動)
本耶麻溪町		10中下	鋸	6	後	10	低(70) 高(30)	別わら	小	架(地)	10下11上	圃(屋)	2~3	動, 自(足)	動, 自(足)
耶馬溪町		10中下	鋸	6, 7	後	10	"	別わら	小	架(地)	10下11上	圃産	2~3	動, 自(足)	動, 自(足)
山国町		10中下	鋸	7, 8	後	10	低	別わら	小	架(地)	10下11上	圃	5	自	自(動)
院内町		10中下	刃, 鋸	5	左	5	低	むすで	大	架地(架)	10下	圃	4	自	自
安心院町		10下11上	刃, 鋸	5	左	5	低	むすで	大	架地(架)	10下	圃	4	自	自
国東															
杵築市		10中下	鋸	4, 5	左	5	低(後高)低	むすで, 別わら	大(小)	架地, 架	10下11上	圃	4~5	自	自
国見町		10中下	刃	6	左	5	低	別わら	小	架地, 架	10下11上	圃	4	自	自(動)
姫島村		9下10上中	刃	5	左	5	低	むすで	大	架地, 架	10	圃	3~4	自	自(動)
国東町		9下10上中	鋸	5	左	5	低	むすで, 別わら	大(小)	架地, 架	10	圃	3~4	自	自(動)
武蔵町		9下10上中	鋸	5	左	5, 10	低	むすで, 別わら	大, 小	架地, 架	10	圃	3~4	自	自(動)
安岐町		9下10上中	鋸	5	左	5	低	むすで, 別わら	大, 小	架地, 架	10	圃	3~4	自	自(動)
山香町		10下11上	刃, 鋸	5	左	5	低(後高)	むすで, 別わら	大, 小	架地, 架	10中下	圃	3~4	自	自(動)

新産都																			
大分市	10中下	刃	6	左	5	低	むすで	大	地	10	圃	4	自(動)						
別府市	10中下	刃	6	左(右)	5	低	むすで	大	地	10	圃	4~5	自(動)						
日出町	10下11上	鋸, 刃	5	左	5	低(初高)	むすで	大(小)	地, 架	10, 11上	圃	4	自						
野津原町	10中下11上	鋸, 刃	6	左	5	低	むすで	大	地	10, 11上	圃	3	自(動)						
挾間町	10中下11上	鋸, 刃	6	左	5	低	むすで	大	地	10, 11上	圃	3	自(動)						
佐賀関町																			
県南																			
佐伯市	8中, 10	鋸	5	右	10	低	むすで	大	地, 野(丸小積)	8中, 10	圃	4	自						
臼杵市																			
津久見市																			
上浦町																			
彌生町	8中, 10	鋸	5	右	10	低	むすで	大	地, 野(丸小積)	8中, 10	圃	4	自						
本匠村	8中, 10	鋸	5	右	10	低	むすで	大	地, 野(丸小積)	8中, 10	圃	4	自						
宇目町	8中, 10	鋸	5	右	10	低	むすで	大	地, 野(丸小積)	8中, 10	圃	4	自						
直川村	8中, 10	鋸	5	右	10	低	むすで	大	地, 野(丸小積)	8中, 10	圃	4	自						
鶴見町																			
米水津村																			
蒲江町																			
竹田大野																			
竹田市	10中下11上	鋸, 刃	7~10	左	15	高, 低	別わら, むすで	小, 大	架, 地	10下11上中	圃	4	自						
野津町	10中下11上	鋸, 刃	6~7	左	5	低, 高	むすで, 別わら	大, 小	地, 架	10下11上	圃	5~6	自(動)						
三重町	10中下11上	鋸, 刃	6~8	左	5	低, 高	むすで, 別わら	大, 小	地	10下	圃	5	自(動)						

農業地帯区分	水田面積	刈取時期	鎌	刈数	刈り方	置き方	刈株高さ	結束材料	結束の大きさ	乾燥の方法	脱穀時期	場所	組人数	機械
清川村		10中下	鋸	7~9	左	5	低,高	むすで,別わら	大,小	地,架	10下	圃	3~4	自
緒方町		10中下	鋸	6	左	5,10	低,高	むすで	大	地,架	10中	圃	4	自,動
朝地町		10中下	鋸	6	左	15	低,高	むすで	大	架,地	10中下11中	圃	4	自,動
大野町		10中下	鋸	6	左	5,10	低,高	むすで	大	地,架	10中下11中	圃	4	自,動
千蔵町		10中下11上	鋸,刃	6,7	左	5	低,高	むすで,別わら	大,小	地,架	10下11上	圃	5~6	自,動
犬飼町		10中下11上	鋸,刃	6,7	左	5	低,高	むすで,別わら	大,小	地,架	10下11上	圃	5~6	自,動
荻町		10中下11上	鋸,刃	7~10	左	15	高,低	別わら,むすで	小,大	架,地	10下11上中	圃	4	自,動
久住畷田														
庄内町		10下11上	刃,鋸	5	左	5	低	むすで,別わら	大,小	地,架	11	圃(屋)	3~4	自
湯布院町		10	刃	5	左	20	低	別わら	小	架(地,野)	11	圃	5	自,動
久住町		10	刃,鋸	~10	左	15	低	別わら,むすで	小,大	架,野	10下11上中	圃	4	自
直入町		10,11上	刃,鋸	~10	左	15	低	別わら,むすで	小,大	架,地	10下11上中	圃	4	自
九重町		10	刃	8	向	10	低	別わら	小	架	10下11上中	圃(屋)	4	自(動)
玖珠町		10,11上	刃	5	向	5	低	別わら	小	架	10下11上中	圃	4	自
天瀬町		10下11上中	鋸,刃	5	右	15	低	別わら	小	架	11	圃(屋)	4	自(動)
日田津江														
日田市		10下11上中	鋸,刃	5	右	15	低	別わら	小	架(地)	11	圃(屋)	4	自(動)
前津江村		10上中	鋸	5~7	向	5	低	別わら	小	架	10下	圃	4~5	自,動
中津江村		10上中	鋸	5~7	向	5	低	別わら	小	架	10下	圃	4~5	自,動
上津江村		10上中	鋸	5~7	向	5	低	別わら	小	架	10下	圃	4~5	自,動
大山町		10上中	鋸	5	向	5	低,(高)	別わら	小	架	10下11上	圃	4~5	自,動